

日本は 自前のエネルギーを持とう

アメリカと中国の「貿易・経済戦争」は深刻な様相だ。

一番困るのは、せっかく浮揚しかけた日本経済がマイナスの影響を受けること。

「安倍晋三首相の英断」で「通貨の供給量を増やしてデフレを緩和し、インフレに向かっている日本経済」を【原油高】が襲っているが、それだけでデフレ圧力が強まる上にアメリカと中国との「貿易・経済戦争」の**とばっちり**を受けては**たまったものじゃない**。

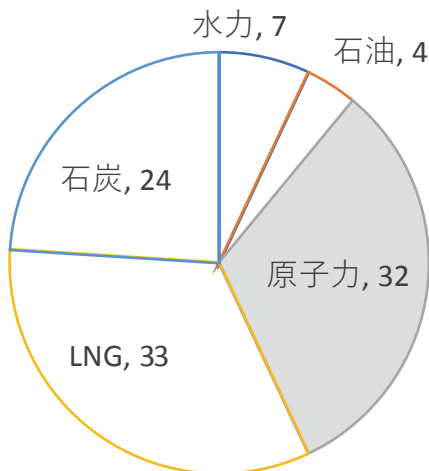
これを根本的に解決するには、『日本自前のエネルギー』を開発することだ。

科学技術が十分にあれば、『原子力発電』がもっとも手っ取り早い。

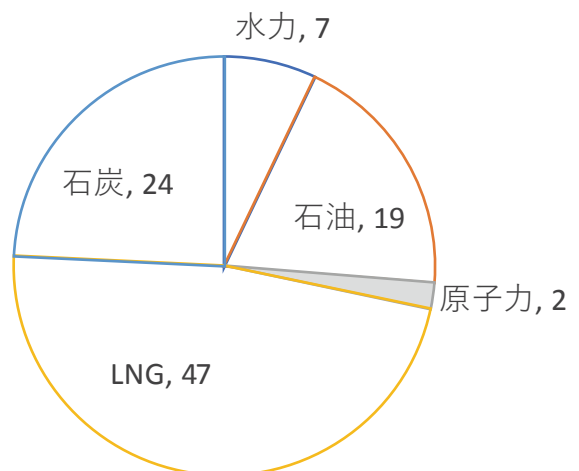
一時は日本の発電エネルギーの30%を占めていた「原子力発電」が左翼を中心とした「原爆アレルギー」のせいで稼働を抑制され、小泉純一郎元総理まで「原子力発電」反対!!と叫んでいる。

これでよいのだろうか？

2010年



2012年



中国・韓国の 原子力発電事故に備えよう

「韓国」や「チャイナ」の汚い、危ない『原子力発電』は海岸線に乱立している。

我が国『日本』が原子力発電稼働を自粛していても「韓国」や「チャイナ」で事故が起きれば日本はモロに被害を受ける。

すでに「中国の大気汚染」で黄砂交じりのPM2.5は偏西風に乗って日本のどこかしこに降り注いでいるではないか。

日本のような「科学技術立国」を実行した国は世界にはさほどない。

その日本で『原子力発電』の稼働を控え『原子力発電』がタブーであるかのような間違った認識ができれば『原子力発



中国広東省 深圳市竜崗区の原子力発電所

電』を学び研究する学生・研究者が少なくなり、日本の損失だ。中国・韓国の原子力発電事故に備えるためにも日本のクリーンな『原子力発電』は立派に稼働すべきなのだ。

もう一つの手っ取り早い「日本自前のエネルギー」は『地熱発電』

日本列島の背骨にあたる場所は山だ。

増え続ける中国の原発(全51基)



韓国の原子力発電所(2011年3月)



火山の多い「日本列島」には地熱が豊富にある。

山にはたいていの場合、温泉があるわけで、1つの温泉地なら1つの「地熱発電所」の設置は可能だろう。

「温泉組合」との共存・共栄をテーマに政治家さんに活躍してもらいたい。

設備さえ造れば地熱発電は永久的に稼働する。

東京海洋大学の准教授、青山千春博士が発見した日本自前資源「天然ガス」

最近、日本が豊富な天然資源国家であることが明らかになった。

東京海洋大学の准教授、青山千春博士の発見・実用化の功績だ。

日本自前資源『メタンハイドレート』の



調査。

メタンハイドレートは日本列島の周りの海底に眠るメタンガスの凍ったもの。資源エネルギー庁の調査は太平洋側の砂とメタンガスの混じったメタンハイドレート調査が多い。(砂とガスの分離技術が難しいと言われている)

ところが東京海洋大学の青山千春博士の日本海側のメタンハイドレートはメタンガスが自然に湧き出ているもの。

海底の圧力と低温で地球から湧き出しているメタンガスが凍った氷柱だ。



「燃える氷」
メタンハイドレート

スカイツリーほどの大きさのブルームが何本も連なっている。取り出すのは非常に簡単で、メタンハイドレートのメタンガスは常に海底から噴き出しているの自然に海表まで吹き上がる。野球場のドームのような大きなロート状のものでメタンガスを集めてタンクに入れ込めばすぐにエネルギーとして利用できる。青山ご夫妻は自費でチャーターした漁船でメタンハイドレートを採取し、船上でライターの火を氷に近づけるとポッと青白い氷が点いた。

どれほど嬉しかったことだろうか。

青山千春博士と夫の参議院議員の青山繁晴氏は学会に発表し韓国・中国でもメタンハイドレートの特許を個人の費用で取得しているという。青山ご夫妻は特許権を行使するつもりで取ったのではなく、日本国家に「自由に使っていただきたい」と「パトリオット」そのものだ。

今こそ青山ご夫妻の「メタンハイドレート」で日本海側の産業振興、「町おこし」、「村おこし」をやろうではないか。